



「ごみ拾い」も「防災の取り組み」に「仮装」して



佐賀県佐賀市藤木自主防災・防犯組織活動支部
前支部長 野口 博

1 起・きっかけ

2014年に当藤木地区内に佐賀清和学園中学校・高等学校が越してきました。子どもがいないと地域は元気が出ない、とよく言われます。子どもたちの声を騒音ととらえる方も少なからずありますが、当地区ではおおむね佳い出来事としてとらえています。佐賀県全域から登校する私立の学校ですので、スクールバスで通学している生徒たちも多いと聞いています。生徒たちの活動にも何かと制限はあるのかもしれませんが、そのうえついでにコロナ禍でもありましたので、「いまできること」を「できる範囲」で、何か一緒に取り組みができないかといつもふつつつと考えていました。

2 承・ハロウィン清掃を始めました

2021年からハロウィンにちなんで、それぞれの工夫を活かした仮装での見た目がとてもユニークな地区のごみ拾いを始めました。

翌年2022年からは清和学園が参加してくれましたが、記念すべき第一回目の活動日はとにかく天気の良い日でした。清和学園からは180名以上の子どもたち、当藤木地区からも50名を越える大人と子ども。思い思いの仮装。ごみ袋とごみ拾いトングを携えていないと何の集団なのだろうと奇異な目で見られてしまう光景だったでしょう。活動終了後、突然、地区公民館に隣接する神社の境内で生徒たちが始めたファッションショーには大人も地区の子どもたちも本当に楽しく参加してく



仮装した高校生

れた様子を間近に見ることができました。「つながり」の大切さを深く感じることできた瞬間でもありました。

3 転・発想の転換

2023年は、当藤木地区の近隣3自治会にも一緒に活動してみませんか、と声を掛けました。やや佐賀の大人にはまだ抵抗のあるハロウィン仮装でのごみ拾い活動への参加。さてどうしたものか、と思いながら。もともと区画整理事業での土地開発で力を合わせた顔ぶれが各地区の代表に名前をつらねていました。気心も知れてもしかしたら良いチャンスだと思っていたことが的中しました。「よかよ（佐賀弁でオーケー）」のひとこと。さらに大人数の活動ができる、と喜びました。

参加者数500名の全員用のごみ拾いトングは、佐賀市役所から借りることができました。次に、屋外での作業ですので、飲料水と手袋は安全面もあり、用意しようと考えました。さて、どこからその費用を捻出するかと頭をひねりました。

自主防災組織活動事業費補助金		
防災活動事業		
活動の内容	校区自治会	単独自治会
炊き出し訓練	6万円	2万円
避難訓練	6万円	2万円
高齢者等の救出・救護訓練	6万円	2万円
住民の避難訓練	3万円	1万円
防災講話・講演会開催	3万円	1万円
情報伝達・防災訓練	3万円	1万円
防災マップ作成	・原簿作成に対する経費 5万円 ・印刷費本費 世帯数×100円 (上限30万円)	

＊同じ活動の中で2つ以上の項目を実施する場合、2つ目以降の項目は上限額を半額とする。なお、防災マップ作成には適用しない
 ＊補助金の対象となるものについては、「佐賀市自主防災組織活動事業費補助金交付要綱」を参照。

何のタイミングだったのでしょうか、ふと思いついたのが、防災訓練と位置付けることができればいいのではないかと、のアイデアでした。佐賀市には自主防災組織に対する訓練活動への助成があります。当日①活動前の集合場所への移動を各地区から徒歩等で来てもらうことで「避難訓練」。②ごみ拾い活動時に見つけた危険、要注意の箇所を報告してもらうことで「情報伝達訓練」。佐賀市の担当者もそんな無理やりな話しも聞き入れていただきました。ありがたい助成を受けることができました。結局、位置づけとしては兵庫校



仮装した高校生



仮装した家族



仮装した3きょうだい



集合写真に入りきれません

区自主防組織の防災訓練として実施をしています。活動当日は画像にもありますように本当に楽しい活動でした。子どもたちの笑顔も素敵でした。

4 結・子どもも大切な地区の一員として

防災の取り組みは当藤木地区だけ実施していればよい、というわけではありません。大人ばかりで取り組んでいけばいい、という種類でもありません。子どもたちにもそれぞれの「出番」を与え、「役割」を果たしてもらおう。地域全員で子どもを育てるという意識をしっかりと持つ。子どもたちひとりひとりの存在をしっかりと「承認」する。地域での防災・減災への学びがさらに深まることは間違いありません。

「ハロウィンにちなんでのボランティア清掃」を「防災訓練」に「仮装」し、子ども達と一緒に楽しむ、という考え方。いかがでしたでしょうか。